

資料 6

外部空間の緑化の考え方・ポイント (石原和幸委員 提供)

(1) 計画地西側からの俯瞰イメージ図



- ・新幹線から見た人々に東静岡を印象付け、ここに降りたいと思わせるような緑のインパクトを表現する。
- ・来訪者が、東静岡駅から緑のガーデンに降り立つことをイメージ。
- ・建物の高さは低くして、富士山の眺望を楽しめるようにする。

(2) 計画地西側からのイメージ図



- ・来訪者は、松や紅葉などによる庭園を散策して、四季を通じて古代東海道を楽しむ。
- ・水の声、花の香りなど、五感を通じて、静岡の良さを体感することをイメージ。

(3) 文化の拠点施設からのイメージ図



・古代東海道から、庭園を通して富士山を眺望する写真撮影スポット

(4) 計画地南西側からのイメージ図



- ・静岡は徳川家康公ゆかりの地であり、東静岡には皇居(江戸城)とつながるよう、松をシンボルツリーとして庭園を表現。
- ・建物の周囲には堀に見立てた水路を配置。

(5) 計画地南側からのイメージ図



- ・堀に見立てた水路の中に、シンボルとなるモニュメント(擬岩)を配置。
- ・桜、松、紅葉を揃え、一年中楽しめる緑のモニュメントとする。四樹(しき)を楽しめる場をイメージ。

(6) 計画地東側からのイメージ図



- ・屋上庭園から富士山の眺望を楽しむことをイメージ。
- ・屋上庭園には、飲食ができる場があってもよい。

(7) 新幹線車窓からのイメージ図



- ・新幹線から見る人々及び周辺の人々に向けて、文化力の発信拠点であることを示す。
- ・世界に誇る緑の文化、緑のパワーを表現する。

(8) 東静岡駅自由通路から見たイメージ図



© Ishihara Kazuyuki Design Laboratory Co.,Ltd

- ・静岡県がガーデンシティであるためには、人々が暮らす場所のすぐ近くに花や緑があることが重要。
- ・暮らしのすぐ近くに花や緑があるようなデザインをイメージ。

(9) 東静岡計画地 森のイメージ



・グランシップ芝生広場の周囲も、松、紅葉で四季を楽しめる場にする事で、「文化力の拠点」と対になる庭園をイメージ。